

実践紹介集 [平成29年度]

浜田市まちづくり総合交付金事業(課題解決特別事業)

自地区	No.	事業名	実施団体名
浜田	1	皆でつくる!いきいき健康大会♪	田町まちづくり推進委員会
	2	ネットワーク強化事業 ～「みんなのみはしネット」を目指して～	みはし地域まちづくりネットワーク
	3	みはしフェスタ ～産業部会立ち上げとみはしネット持続可能性確保～	
	4	お出かけサロン	
	5	美川地区における「人口減少対策及び若者定住促進」事業	美川地区まちづくりネットワーク
金城	6	にぎわい創設事業	今福地区まちづくり推進委員会
	7	地域まるごと6次産業化推進事業	美又湯気の里づくり委員会
	8	小さな郷づくり推進モデル事業	雲城まちづくり委員会
	9	「農」から始めるまちづくり事業	縁の里づくり委員会
	10	安全で安心な地域づくり事業	
	11	観光交流の里づくり事業	
旭	12	(仮称)今市まちづくり総合計画策定事業	今市地区まちづくり推進委員会
	13	公民館周辺の環境保全事業	和田地区まちづくり推進委員会
	14	みんなの和田 暮らし支え合い事業	
弥栄	15	～家庭学習支援事業～「やさか塾 春合宿」	安城地区まちづくり推進委員会
	16	地域を繋ぐ防災大運動会	杵束地区まちづくり推進委員会
	17	パワースポットPR事業	杵束地区まちづくり推進委員会
三隅	18	「三保なべフェスタ」を通じた三保地区活性化事業	三保地区まちづくり推進委員会
	19	景観向上と賑わい創出事業	白砂まちづくり委員会
	20	交流の広場づくり事業	黒沢まちづくり委員会
	21	安全な桜ロード整備事業	
	22	井野地区「コミュニティワゴン」試験運行事業	まちづくり推進委員会 INO

1 田町まちづくり推進委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事〔課題解決特別事業〕

皆でつくる！いきいき健康大会♪

P

事業の目的

子どもからお年寄りまで、楽しく参加しながら健康意識を高める。

多くの人が関心を持っている「健康」をテーマに、参加者が一緒になって体を動かし、交流を深める。

見込まれる成果・効果

地域内の各種団体や他世代との地域内交流の促進

準備段階から各種団体巻き込み話し合いの場を設けることにより、この事業をきっかけに地域内の人や団体が連携する仕組みができる。

いつまでも健康で明るく過ごすことを目指す地域となるとともに、日頃からご近所同士、町内同士で「顔の見える関係」をつくっておくことで、災害等が発生した場合でも助け合える体制・関係となる。

きっかけづくり

- ・関心がある「テーマ」について住民アンケートを実施
- ・まちづくり計画の策定

動きづくり

- ・まちづくり推進委員会・老人クラブ・子供会・水産高校生の実行委員会による話し合い

実践活動の姿

- ・健康大会の実施
- ・振り返り反省会
- ・アンケートの実施

D

事業の概要

「関心があるテーマは何か」というアンケートを実施し、皆さんの声を事業計画や取り組み内容に反映させる。

－きっかけ－

- 町内アンケートの実施 H28. 11 月
- まちづくり計画の策定 H29. 6 月

まちづくり計画で実施事業を位置付け共有

－動き－

- 実行委員会による話し合い H29. 6～
全体会：4回 各部会議：随時

老人クラブ（鏡山クラブ）と子供会に実施種目について発案から準備までの協力をお願いし、役割と責任を持ってもらうことで、自然とお客さんから担い手側に巻き込む。



わいわい・ガヤガヤ
打ち合わせ中♪

☆プログラム☆ - 実践 -

1 全員出席！健康教室♪

健康指導員の講師を招き、日々簡単にできる健康体操を教えていただきました。

2 楽しく体を動かそう♪【実施種目】※担当

- | | |
|----------------|--------|
| (1) 健康ボール送り | ※鏡山クラブ |
| (2) 紅白玉入れ | ※鏡山クラブ |
| (3) パン・お菓子食い競争 | ※子供会 |
| (4) 待て待て玉入れ | ※子供会 |
| (5) 動物でGO! | ※子供会 |
| (6) 健康輪投げ | ※鏡山クラブ |

3 みんなで踊って輪になろう♪

参加者全員で「浜田節」を踊りました！



田町まちづくりスタッフ

H29. 10. 8 (日)
10: 00～14: 00
松原小学校体育館
参加者：132人

C

成果 健康意識の向上やイベントの満足度が高かったことも良かったが、地域の人や団体が連携し、今後も地域の為にみんなで協力して取り組もうという関係、意識を築くことができた。

課題 ※実施後アンケートから

- ・参加されない(できない)方がどのように思っておられるのかを考える必要がある。
- ・末永く活動を行うためにも、負担(人的、金銭的)が掛かり過ぎないような運営を考える必要がある。実施方法の再検討、安定的な事務局も必要…
- ・イベントを開催することが目的にならないように…

A

改善点 活動を進めていく中で、事業を実施するノウハウを蓄積し、人材を確保していくことで、効率的な事業の実施や安定的な事務局体制を築いていく。

補助金や交付金に依存しないよう、自主財源の確保や参加者負担など検討していく。

今後の動き(希望)

- H28年度:「防災」をテーマに自主防災組織を主体に実施
- H29年度:「健康」をテーマに老人クラブと子供会の巻き込み
- H30年度:「若者」をテーマに若い人たちがまちづくりに関わりやすくなるような事業を実施していきたい。(予定)
(実施後アンケートにもそんな声が…)

2 みはし地域まちづくりネットワーク

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事〔課題解決特別事業〕

ネットワーク強化事業 ～「みんなのみはしネット」を目指して～

P

事業の目的 みはし地域まちづくりネットワーク（みはしネット）は、地域内における知名度が著しく低いという重大な課題を抱えています。このため、みはしネットの各部会・各ブロックが何らかの事業を企画立案して協力者・参加者を募ろうとしても、なかなか仲間を得られません。そこで、みはしネットの知名度を上げることを目的としました。

見込まれる成果・効果 みはしネット主催事業への呼びかけを行った際に、警戒されることなく、多くの方が、理解を示してくださり、協力者・参加者が増えるようになることが見込まれます。



当事業によって作成したロゴ「みんなのみはし」。町内会と町内会が手を取り合って地域課題に取り組んでいく姿を表します。

きっかけづくり

- ① ロゴ、幟作成
- ② パンフレット作成
- ③ ポロシャツ作成

動きづくり

- ① 文書等へのロゴの掲載
- ② 幟掲揚とポロシャツ着用
- ③ パンフレット手渡し

実践活動の姿

- イベント時に PR 事業を併催
- ・竹迫 4.5 町内ブロック「秋祭り」
 - ・三階小 PTA「みはし☆まつり」
 - ・各部会の主催事業

D

事業の概要 事業を行う際、それが周囲の人々にみはしネット主催の事業であると理解いただくために、小道具を作成してイベント実施時に使用しています。また、イベントへの参加者に、みはしネットの将来構想を記載したパンフレットを手渡ししています。



ポロシャツ着用でみはしネット事業であることを PR



幟掲揚で、みはしネット事業であることを PR



餅つきの実演販売時に、みはしネットの存在を PR



パンフレットでみはしネットの概要を知っていただく

C

成果・課題 この 1 年間で、みはしネットの知名度は大きく上がったと直感的には感じます。ですが、まだ数値としては上がってきておりません。来年度の各部会・各ブロックの事業告知の際に、参加者数の増減を計ることによって成果を明示したいと考えております。また、みはしネットの PR 活動は数年間をかけて地道に継続していくことこそ最大の手段だと考えていますので、来年度以降も邁進いたします。

A

改善点 今年度は、みはし地域内一般市民を対象として広く浅く PR 活動を展開しました。来年度以降は、新しく町内会役員になられる方々や、みはし地域内外の各種団体さまを対象に、より深く具体的な情報を的確に提供し、年度替わりの際によりよい関係を、よりスムーズに構築していける体制を築きたいと思っております。

3 みはし地域まちづくりネットワーク

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事〔課題解決特別事業〕

みはしフェスタ ～産業部会立ち上げとみはしネット持続可能性確保～

第1回みはしフェスタは、5月27日（日）11時から三階小学校体育館にて!! 来てね!!

P 事業の目的

- ① 今後の予算規模を維持すること。具体的には産業部会を立ち上げるきっかけとし、自主財源を獲得するための事業を行います。
- ② 33の町内会が一堂に会する機会を設けること。
- ③ 町内会・自治会の在り方を考えるきっかけとすること。

見込まれる成果・効果

- ① 自主財源を確保する道が開けます。まちづくり総合交付金の増減に事業規模が左右されることのない強い組織となります。
- ② 歴史的な繋がりが脆弱な33の町内会が、お互いを知り合うきっかけとなります。
- ③ フェスタの企画運営に町内会が関わることで、活性化や組織改革のきっかけが生まれます。

きっかけづくり

- ① みはしネット内の互いの町内会をよく知らない現実。
- ② 交付金減額に対する協議

動きづくり

- ① フェスタ実行委員会立ち上げ
- ② 部会・ブロックごとに収益事業の検討を開始

実践活動の姿

- ① 口コミによる呼び込み
- ② 募集要項の全戸配布
- ③ 販売向け商品の開発

D 事業の概要

- ① みはしフェスタ実行委員会の立ち上げ：総勢14名で結成。フェスタの概要を確定し、広報はまだ2月号に募集要項を挟み込んで全戸配布しました。
- ② プレ事業の開催：竹迫4,5町内ブロック主催の「秋祭り」と、三階小学校PTA主催の「みはし☆まつり」に出店し、物販の予行練習を行いました。また、物販可能な商品の検討を実施中です（写真）。
- ③ **来る5月27日（日）「第1回みはしフェスタ」を開催します。**
- ④ 第1回みはしフェスタ終了後、実行委員会を産業部会に組織改編します。



C 成果・課題

第1回みはしフェスタ終了後に検証します。

A 改善点

第1回みはしフェスタ終了後に検証します。

CM 第1回みはしフェスタ 「はじめの一步」～^{さんさん}33と輝くネットワークに向けて～

現在、みはし地域居住者もしくはみはし地域に店舗を持つ事業者からのフェスタ出店者と、みはし地域内外からのステージ出演者を大募集中です!! 詳細は、ネットワークだより19号をご覧ください。どうか、みはしネット事務所まで、お問い合わせください。 事務所 TEL 28-7699

4 みはし地域まちづくりネットワーク

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事〔課題解決特別事業〕

「お出かけサロン」

平成29年度 仕組みづくりを目指して



P

事業の目的

- ・私の町内の高齢者さんの足の確保を地域ドライバー（自家用車の提供）による「お出かけサロン」の仕組みを作り、自家用車が無くても移動に不自由をしない地域を目指す。
- ・特に買い物と人との交流を中心にサロンとしての機能も併せ持つ。
- ・高齢者のみでなく、子どもや諸事情により車を保持しがたい人にとっても安心して暮らせる地域を目指す。

見込まれる成果・効果

- ・集会所や個人宅開放型のサロンの他、この「お出かけサロン」を組み合わせ気分に合わせて複数のサロンを選択できる事で、マンネリ化を防ぎ高齢者の生きがいがづくりや介護予防に繋がる。
- ・介護予防に繋がる軽体操を組み込むことで、健康寿命を延ばしたり、まちづくり活動への参画を促すことが出来る。

きっかけづくり

- ・ミニデイが廃止になると移動手段と楽しみを失うことになる高齢者さんに、代わりとなる仕組みが必要であったこと。
- ・普段より、高齢者さんに寄り添えるまちづくりを話題にしていたこと

動きづくり

- ・昨年度、ジャンボタクシーによる「お買い物サロン」を実施。利用者さんの意見を基に部会での話し合いを重ねる。
- ・試運転町内の高齢者さんにアンケートの実施。

実践活動の姿

- ・H.29.10月～H30.1月まで9回実施 参加者延べ人数27名
- ・シティーパーク、ジュンテンドーで買い物。季節に応じた場所へ行き気分転換をして帰宅。

D

事業の概要

- ・野原町の男性有志（一人）から、「地域ドライバーを自分の町内でやってみよう。」との事で実施。
 - ・高齢者さんに喜ばれるための仕組みづくりを目指した。
 - ・高齢者さんが利用したい時に、直接地域ドライバーに申し込む。
 - ・利用対象70歳以上、または車を所有していない70歳以上の方に2回（天気によって中止もある）
- ジュンテンドー
シティーパーク
季節に応じた場所に行き交流と気分転換
昼食は自己負担
利用料1回 200円（今後改訂）
・地域ドライバーさんには、ガソリン代（実費）を支払う



C

成果・課題

- ・地域の高齢者さん（93歳）から楽しみが出来たとお出かけサロンを十分に楽しまれた。
- ・買い物の時間は短いですが、四季折々の場所に出かける道中に話が弾み満足してもらえた。
- ・利用者の家族にも喜ばれ、地域ドライバーも生きがいを感じた。と話された。
- ・お買い物と気分転換のドライブ、一緒に昼食を取ることが、非日常的で満足してもらえた。
- ・日程が他の行事と被らないように設定する。（例）他のサロン活動や町内行事。

A

改善点

- ・今年度は試運転段階であったが、来年度より地域ドライバーを募集し町内に各々増やしていきたい。
- ・この活動をみはしネット全地域の皆さんに理解してもらうため、部会だよりの定期発行、体制づくりを進める。
- ・公民館で行われる介護予防教室や軽体操などに参加できるように日程を調整する。

5 美川地区まちづくりネットワーク

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業〔課題解決特別事業〕

美川地域における「人口減少対策及び若者定住促進」事業

P 事業の目的

【共通認識】

- ・空家が目立ち始め、近所もさみしくなった
- ・歳も取り手もなく田畑を荒らすしかない
- ・草が伸びても、刈手がない
- ・子供たちを道であまり見かけなくなった
- ・生活道路での人通り無くなった
- ・車と言えば、介護関係が目立つようになった
- ・歳も取り買い物にもなかなか行けない
- ・地域に生活を支えるだけの仕事場が無い

見込まれる成果・効果

美川を再発見、情報発信による定住促進

【危機感】

- ・地域のシンボル、小学校まで無くなりそう
- ・高齢者だけでは集落を守っていけない
- ・このままでは地域全体がさびれてしまう
- ・昔から続く美川地域は大丈夫か

【取組課題】

- ・何か出来ないか、みんなで知恵を出そう
 - ・行政頼みばかりでなく、地域で考えてみよう
- 多くの課題はあるが**
若い人を呼び込もう「来てほしい、迎えよう」
地域の魅力再発見、興味のある隠れた「お宝」を探し美川地域をもっとPRし知ってもらおう

【きっかけづくり】

「美川地域人口減少対策会議」の立ち上げ

【動きづくり】

「住民アンケート」の実施



アンケート結果集計も兼ねた
ワークショップの開催

【実践活動の姿(予定)】

- ・「地域お宝マップ（空家、休耕地）」作製
- ・移住ニーズの把握
- ・「美川ホームページ」開設
- ・モデル地域見学会、研修会

D 事業の概要

---きっかけづくり-----

「美川地域人口減少対策会議」立ち上げ H29.4～
(実施事業、進め方などの話し合い (1回/月))

---動きづくり-----

○美川地域全戸へ「住民アンケート」を実施

○ワークショップの開催

H29.12.19

アンケートで寄せられた
意見を集約するとともに
ワークショップを通じて
参加者で共有



---実践活動(実施中)-----

1 「地域お宝マップ」の作製

- (1) 「空家、休耕地」に見える化し地域で共有
- (2) 美川地域の店、公共施設等も掲載

2 移住ニーズの調査・把握

- (1) 今後、移住ニーズ合った地域・物件を紹介
- (2) 市「空家バンク」と連携し活用

3 美川ホームページの開設

- (1) 情報発信ツールとして地域内外に発信
- (2) 空家、休耕地、公共施設等の紹介

4 モデル地区見学、研修会の実施

C 成果

2カ年事業の初年度で、目に見える成果は、まだ無いが、地域住民の声を聞くことができたので、皆さんの意見や思いを活かしながら、また皆さんも巻き込みながら、これから本格的に各事業を展開していきたい。

A 課題

課題

委員(各町内会長)の数も多く、合意形成を図るのが難しい。

⇒協調と事業展開のスピードとのバランスを考える必要がある。

6 今福地区まちづくり推進委員会

事業名 浜田市町づくり総合交付金（課題解決特別事業）

にぎわい創設事業



P

事業の目的

平成 27 年、地区内唯一のスーパーが廃業となり、5 キロ四方無店舗状態となった。地域住民の利便性向上と交流の拠点づくりにとの思いで、今福産直「もやい市」をオープンする。買い物だけが目的でなく、出会う・語る場所としていることから、軽喫茶や軽食が取れるように露天商営業も取得した。

見込まれる成果・効果

月に 2 度（第 1 土曜・第 3 土曜）の開設なので十分ではないが、今のところ 70 人～80 人位の利用者が集い、結構にぎわっている。



きっかけづくり

地区内唯一のスーパーがなくなったこと

動きづくり

第 1 期まちづくり交付金制度の総括、集大成としての取り組みとした。

実践活動の姿

産直会員の公募で 42 名が応募。設立総会で当面の運用と役割の分担（全体を 3 班にし交互に担当する）

D

事業の概要

設営場所を市に相談し、公民館の駐車場を借りることとした。駐車場なので屋根がないので、やむなくテント営業とし、会員の野菜、果物、加工品等を販売や日替わりでの軽食等（コーヒー、ソフトクリーム、雑煮、焼き芋やイモスナック、焼きそばに焼き鳥等々）を用意した。

魚屋さんの立ち寄りも大人気で、昼食や夕食の足しにと利用者も多い。買い物が終わると、一息井戸端会議が始まる。しばらくすれば「やれ！ながたれたけえいのうかい…」満足そうにお帰りでした。



C

成果・課題

利用者の多くは高齢者、60%は常連客で、定着感が伺える。2 週間に 1 回の「もやい市」が待ち遠しく楽しみだとも聞えてくる。課題として、もう少しお客様を増やすこと、テント設営にスタッフの人数が必要となってくるので、会員を増やすことや他団体との連携、雨天・強風時の負担増への対応など、これらの課題が解決できれば、開設の回数を増やすことができ、もう少し利便性の向上につながると思う。

A

改善点

この事業は、まちづくり推進委員会の事業としてスタートしたが、経費面で少しばかりの助成はしているものの、現状は別組織として独立運営している。

テント営業の改善が最大の課題であり、これを改善すれば開店日も増やし、取扱商品も増やせて利便性の向上に貢献できるし、若者への関心もつながるのではないかと考える。

7 美又湯気の里づくり委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

地域まるごと6次産業化推進事業

P

事業の目的

平成25年に生産を開始した黒米焼酎「黒大蛇」は、これまで約3800本（720ml）の販売実績があるが、認知度が低く、販売数量が伸び悩んでいる。平成26年にパッケージの変更、平成27年にはパッケージ、ラベル、瓶の形状と色（黒から透明に）変更し、商品の販売に取り組んできましたが、高級感のあるパッケージに変更して、もう少し販売本数の増加につなげるようにしていきたい。

見込まれる成果・効果

高級感を持たせることにより、お土産や贈答品としての購入数量の増加が見込まれる。

きっかけづくり

値段の割には外箱に高級感が無いと、お客様や地域の方からの意見が多く寄せられた。

動きづくり

酒販店、インターネット等で外箱を調査

実践活動の姿

採択事業の実施

- ・外箱の作成
- ・ネックポップの作成

D

事業の概要

初回（H25）



1回変更（H27）



今回（H29）



C

成果・課題

先日、外箱等が完成し、販売を開始しました。

この外観となってから間もないので、販売実績は少ないですが、お客様や地域の方からの評判は良いです。

これまでの販売に加え、お土産や贈答品として購入していただけるよう積極的にPRを行っていきます。

A

改善点

外箱の変更だけでなく、販売方法や営業等を見直し、販売増加につなげていくことが重要だと思っています。飲食店との連携や取扱店の増加など、積極的な売り込みを行っていくため、各種団体と協議、検討を行います。

8 雲城まちづくり委員会

【事業名】 浜田市まちづくり総合交付金（課題解決特別事業）

「小さな郷づくり」から始める雲城公民館エリアの郷づくり

P

【事業の目的】

- **公民館とまちづくり委員会**が協働して、集落単位の「小さな郷づくり」を目指す。
- 「小さな郷づくり」とは、**集落住民**がよりよい郷にするための課題に関心を持ち、その解決に向って話し合い、共有し、住民自ら具体的な取り組みをする郷である。
- **公民館**は学習機会を設定し、**話し合いの場**をつくる。
- **まちづくり委員会**は住民の具体的な課題解決の支援をしていくが、公民館も協力・協働して進めていく。

【見込まれる成果・効果】

- **集落住民**は課題を共有し、その解決のための具体的な取り組みの話し合いが始まり、実際に取り組んでいく。
- その結果リーダーができ、集落のコミュニケーションやより住みやすい地域を目指す気運が高まる。

【きっかけづくり】

地域住民代表、**公民館、まちづくり委員会、行政機関**などで構成する企画会を重ねる。

【動きづくり】

該当集落に企画会のメンバーが出かけ、集落住民に対して学習会と話し合いを行う。

【実践活動の姿】

話し合いの結果、得られた課題の解決に集落住民が計画して具体的な取り組みをする。

D

【事業の概要】（今年度は2集落における『おでかけ公民館』を実施。）

■ 昨年度実施したアンケート結果と先行して課題解決に取り組んでいる集落の例をもとに学習⇒話し合い。

① **新開集落**は農業を生業としてきた旧住民と新しく移住した住民が混在した集落で**コミュニケーション**に大きな課題があった。

② **青原集落**は昔からの農村地域で、**人口減と高齢化**の課題があった。

■ それぞれ異なる集落課題に対応するため、PDCAを踏まえた6回の企画会を実施した。企画会が情報交換の場となり刺激し合える場となった。

【その後の具体的取組】

① **新開町内**では子育て世代によるコミュニティが誕生し、親子でカレー作り、今後の活動について話し合いが行われた

② **青原町内**では集落の代表が集まり今後の活動計画の話合いが行われ、その結果を集落の集いで話し合うなど気運が高まった。

③ 昨年度の**金田町内**ではこども農園ができ、農園が町内の集いの場となった。

企画会の様子



集落の話し合い



C

【成果・課題】

- 集落の集いは、人集めなど企画会参加の**集落の代表**が積極的に対応した。
- 話し合いは企画会メンバーのファシリテーションのもと、活発で実のあるものとなった。
- 2集落はそれぞれの課題解決のためのリーダーができ、具体的な取り組みに入っている。
- **公民館、まちづくり委員会、県や市行政機関**の連携と協力のもと実施できた。今後の展開には継続的な支援が必要。

A

【改善点】

- 今後の集落の取り組みに対しては**まちづくり委員会や行政機関**の継続的な支援が大切になるため一層の連携を図る必要がある。
- 雲城公民館エリア全体に「小さな郷づくり」を進めていくためには、企画会の他に集落の交流も大切である。そのための財源措置金などの情報を収集する。
- 未実施の町内会にも企画会に参加して貰い取組前から情報を共有する。

9 緑の里づくり委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

「農」から始めるまちづくり事業

P

事業の目的

人口減少や高齢化により、地域の農地の維持が困難な状況が年々進んでいることに加え、国の農業施策の改変により中山間地域の農業は厳しいものとなっている。地域のまちづくりの基礎となる農業を存続させるため、荒廃農地を活用した農作物の栽培や特産品の開発を行い地域の活性化を図る。

見込まれる成果・効果

- ・ 荒廃農地の解消や、発生を防止することにより、地域の農地を保全ができる。
- ・ 稲作からの転換による農家所得の向上。
- ・ 特産品を開発し、都市交流等誘客事業を展開する。

きっかけづくり

人口減少や高齢化による耕作放棄地の増加を防ぐ対策を検討。

動きづくり

農事組合法人「てごの里小おぐに」の設立。

実践活動の姿

まちづくり組織、自治振興会、農業法人等、各組織が連携して活動。

D

事業の概要

これまで水稻を栽培していた農地での作物の転換、荒廃農地解消の取り組みとして、ソバ・キャベツ・ニンジンの栽培を行った。

野菜類については、産直等への出荷を行い、ソバについては本事業により導入した製粉機を使い「そば粉」として販売を行った。

また、農作業の省力化のため、畝立てマルチ、アルミ万能作業台を導入した。



製粉機

C

成果・課題

これまでそば粉にする作業を外部委託していたが、製粉機の導入により、法人で作業ができる体制ができた。これにより、そばを地域の特産品として栽培、加工、販売していく流れを作ることができた。

原材料の確保のため、栽培面積や栽培農家を増やしていくことがこれからの課題。

A

改善点

経営収支事業となるよう、地域内での栽培面積や栽培農家を増やす取り組みと、販売数量を増やす取り組みを行い、農家の収入と地域の収入を増やしていきたい。



10 緑の里づくり委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

安全で安心な地域づくり事業

P

事業の目的

全国的に水害、地震、土砂災害等の大規模災害が発生している。波佐地区では、過去3度の大きな水害を経験し、住民は計り知れない不安を抱えている。

このような災害が発生した際、公民館や地区の集会所などが避難所として開所されるが、避難者が長期間の待機に耐え得る環境を整備し、生活できるよう必需品の準備を行った。

見込まれる成果・効果

高齢避難者は、極度な疲労に耐えることが難しいが、少しでもリスクを低減することができる。

きっかけづくり

平成29年7月豪雨における避難実態に大きな課題を発見した。

動きづくり

地区自主防災会において、検討を重ねた。

実践活動の姿

- ・まちづくり事業の採択
- ・各町内会の一時避難所の希望を聞いた。

D

事業の概要

中央避難所（波佐公民館）及び各町内で指定した一時避難所の環境整備のため、畳の配布、設置を行った。

- ・中央避難所：40枚
- ・一時避難所：110枚（配付を希望した町内会集会所5ヶ所）



C

成果・課題

避難所において、高齢者が長時間板張りの床で避難生活を行うには限界があるが、少しでもリスクを改善できると思います。

A

改善点

当地区は、16町内会が存在するが、今回は5ヶ所のみ設置で、今後徐々に拡大していきたい。

各避難所に配置した畳等の防災資材を活用した防災訓練を実施したい。

防災用だけではなく、地元のイベント等での活用を検討したい。

11 緑の里づくり委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

観光交流の里づくり事業

P

事業の目的

波佐地区を流れる周布川には、毎年6月になるとホタルが乱舞し、とても幻想的な風景を見ることができる。今年で16回を経過した「ほたる祭り」の近年の集客は2000人弱と頭打ちになっており、イベントをグレードアップするための環境整備を行い、地域内外から多くの来場者を迎え、他地域交流による地域の活性化を図る。

見込まれる成果・効果

ほたる祭り開催の広報と、都市交流事業の効果拡大。



きっかけづくり

ほたる祭りも16年間継続するに当たり、広報宣伝資材も老朽化したため。

動きづくり

実行委員会方式を実施し、地域の全体イベントとした。

実践活動の姿

・まちづくり事業の支援により祭りも充実してきた。

D

事業の概要

- ・のぼり旗（80枚）の作成
集客力アップのため、のぼり旗を作成し、地域の一大イベントとしてPRし、集客増を図る。
- ・照明器具の整備
夜間の祭りのため、来場者の誘導や安全確保を行う。
- ・会場案内看板の作成



C

成果・課題

ほたる祭りの開催広報がより鮮明となり、地域の祭りとしての盛り上がり、他地域からの来場者が増えることが期待される。また、会場の照明も確保され、交流来場者の安全が保たれる。

この祭りを通じて、波佐地区がほたるの里として広く宣伝できる。

A

改善点

国道の辺りでのイベントの開催であるため、より安全対策をする必要がある。

地域振興施設「小波の郷」をほたる祭りの会場とすることにより、都市交流の情報発信拠点と地域産業活性化の重要スポットとして位置付ける。

12 今市地区まちづくり推進委員会（四つ葉振興会）

事業名

（仮称）今市まちづくり総合計画策定事業

P

【事業の目的】

四つ葉振興会と今市地区まごころ福祉協議会（今市地区社協）は、活動指針としてそれぞれ計画書を策定しているが、内容は健康増進や地域福祉の向上など重複するものも多い。しかしながら、組織や計画が異なるため連携がとりにくく、相乗効果も得られにくい現状がある。

そこで、両組織の計画の見直しに併せてまちづくり計画書の統合を図り、今市地区で一体的な取り組みを行える体制を構築する。

【見込まれる成果・効果】

組織の枠を超えて今市地区の目標や課題を共有することで、両組織の連携や協働が行いやすくなる。また、自治会長など双方の計画策定に携わっている役員の負担を軽減できる。

【きっかけづくり】

- ・企画委員会での検討
- ・スタートアップ会議の実施

【動きづくり】

- ・策定検討会議の開催
- ・広報誌による情報提供
- ・SNS による告知

【実践活動の姿】

- ・住民アンケートの実施
- ・ワークショップの実施
- ・計画書策定会議の開催

D

【事業の概要】

①住民アンケートの実施

20歳以上の住民 1,207人に対して
630人が回答（回答率 52.2%）



②ワークショップの実施

アンケート結果の報告を兼ねてワークショップを実施。
今市地区に必要なことについて高校生も交えて議論した。



③2月中に計画策定会議にて計画書の最終検討を行う予定。また、3月に印刷し各戸へ配布予定。

C

【成果・課題】

成果

- ・アンケート調査によりこれまで聞けなかった南高台地区（新住民）の意見を聞くことができた。
- ・WSでは、シニアから高校生まで、またIUターナー等幅広い参加があり新たな関わりが生まれた。

課題

- ・日頃まちづくりに関わっていない方については無反応の方が多く、巻き込みが不十分だった。

A

【改善点】

- ・計画策定の経過等を、SNS などを通じてもっと細かく情報提供する。（どうせ誰も見ないと思い込まない。）
- ・活動における連携を増やすために、各団体の役員以外のメンバーが関わる機会をもっと設ける。
- ・子育てや防災等テーマごとの集まりを増やしたり、各団体の集まりに訪問する。

13 和田地区まちづくり推進委員会

事業名

公民館周辺の環境保全事業

P

<事業の目的>

和田公民館は、サークル活動や避難場所、まちづくりの様々な行事等住民の集まる施設であるため、旧校舎・校庭まわりの広大な法面等の環境保全を行わないと林野となる。和田小学校が閉校後は、延べ200名弱の地域住民参加を自治会経由で呼びかけ行っているが、高齢化率49.91%（H29.1.1現在）と著しい高まりにより、活動の維持しがたい状況にあるので動力噴霧器で省力化する。

<見込まれる成果・効果>

環境保全事業の省力化。また、地域でも動力噴霧器の貸出を行い環境保全の省力化に役立ててもらう。

<きっかけづくり>

- ・ 総務企画部会で、各自治会より呼びかけによる参加者人数の確保がだんだんと難しいとの事で協議をした。

<動きづくり>

- ・ まちづくり課題解決特別事業での取り組みとした。

<実践活動の姿>

- ・ 課題解決特別事業申請が承認後動力噴霧器を購入したが、奉仕作業の時期と合わなかったため今年度は使用できなかった。

D

<事業の概要>

1. 総務企画部会会議

- ・ H28年度

8/18 次年度奉仕作業の草刈りについてどうするか検討。

※毎年、年3回の奉仕作業を実施。

1/19 課題解決特別事業で申請することに決定。動力噴霧器の購入を予定とした。

地域への貸出について協議。

⇒申請書類作成開始。見積もり。

- ・ H29年度

5/22 申請書類内容協議。

⇒申請書類提出

7/21 承認報告。

⇒動力噴霧器購入依頼。

9月中旬 動力噴霧器が届く。

C

<成果・課題>

- ・ 課題解決特別事業申請が承認後、動力噴霧器を購入したが、奉仕作業の時期と合わなかったため今年度は使用できなかった。また、地域への貸出についても同様。
- ・ 公民館周辺だけでなく地域内の環境保全のために、より有効な動力噴霧器の活用方法を考えていく必要がある。

A

<改善点>

- ・ 奉仕作業で動力噴霧器を実際に使用する。
- ・ 動力噴霧器の貸出について住民の方に知ってもらうための協議をする。

14 和田地区まちづくり推進委員会

事業名

みんなの和田 暮らし支え合い事業

P

<事業の目的>

- 少子高齢化が進む中、増加する高齢者の独居及び夫婦世帯の困り事や不安を解消するための取り組みを地域で考えていく。

<見込まれる成果・効果>

- 高齢者の不安を解消するための支援活動へのきっかけとなる。

<きっかけづくり>

- ・ 人口減少・高齢化対策について総務企画部会で協議した。

<動きづくり>

- ・ まちづくり課題解決特別事業での取り組みとした。
- ・ 事業のメンバーは、各自治会から選任してもらい協議をした。

<実践活動の姿>

- ・ 総務企画部会と支え合い事業メンバーで協議して、住民アンケートを作成、配布をした。

D

<事業の概要>

1. 総務企画部会議

① H28年

1/19 有償ボランティアについて検討。⇒スケジュールや企画の作成。申請書類作成開始。

2/17 事業内容等について検討。

3/16 住民アンケートについて協議。

② H29年度

5/22 申請書類内容協議。⇒申請書類提出。

7/21 申請承認報告。検討メンバーについて、各自治会での選任とし、正式活動開始を10月と決めた。

9/20 各自治会からメンバーの報告。検討メンバーの第1回会合を10/12に決定。

10/19 アンケート素案について協議。

11/30 アンケートについて協議。

12/20 事業メンバーでの取り組み進捗状況について確認・共有。

2. 支え合い事業メンバー会議

① H29年度

10/12 第1回会議。段取り、工程について協議。アンケート素案作り。

11/16 アンケート内容、配布や回収等について協議。

12/7 アンケート最終決定。配布回収等について確認。

12/18 アンケート配布準備作業。⇒アンケート各自治会経由で配布。

2/5 アンケート集計作業。

2/13 アンケート集計作業。次年度予算検討。

C

<成果・課題>

- ・ 各自治会から選任してもらい、事業のメンバーを決定した。
- ・ 住民アンケートが実施できた。
- ・ 事業を進めていく上で、地域住民の助け合いの気持ちの意識を向上させていくことが課題である。

A

<改善点>

- ・ 集計結果を地域の方と共有する必要がある。

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

～家庭学習支援事業～ 「やさか塾 春合宿」

P 事業の目的と見込まれる成果 子育てにとって魅力ある地域とは？

自然豊かな環境で子育てを・小規模校で暖かな教育を・地域で育まれる安心を

- ・これらがそろった弥栄ですが、子育て世代の減少、児童生徒数の減少は地域の将来像を描く際には大きな課題となっています。子育て世代が地域の中に魅力ある空間として学校を位置づけ、「子育てしたいむらNO.1 やさか」を描くことで、子育て世代の視点から地域課題にアプローチします。
- ・児童生徒の家庭学習の一つの形として、学校の年度替わりの春休み期間に宿泊型学習合宿を開き、学力の底上げを支援し、子どもたちと親世代を応援します。

きっかけづくり

安城公民館放課後子ども教室「マジスクール」が母体としてあったが、さらに発展した家庭学習への支援が地域住民の中に描かれる機運があった

動きづくり

- ①保護者へのアンケートや学習支援の方法を案内した
- ②中学校と相談し、理解と協力を得た
- ③委員会内で協議し宿泊型学習合宿を選択した

実践活動の姿

昨年3月弥栄中学校2年次終了生徒12名を対象に春合宿を実施した経験を踏まえ、本年度は新しい学習形態を取り入れる方法を模索した

D 事業の概要

- ・実施日と実施場所 平成30年3月28日～30日（2泊3日） ふるさと体験村 いわみ〜る
- ・参加者 弥栄中学校1年次・2年次終了生徒（12名）
島根県立大学学生（学習サポーター 4名） 地域住民 まちづくり委員（6名）
- ・合宿内容 3日間の時間割を組み、各学年生徒は次年度への準備として教科の復習をする
（am.合宿地ふるさと体験村で英語、数学の復習問題集を個別に取り組む）
（pm.いわみ〜る視聴覚室で個別にPCを利用して動画による講義、問題に取り組む）

事前準備

- ・保護者、学校への案内と説明
- ・eラーニングによる学習を取り入れるため学習形態の選択と環境準備、事前模擬事業を行う



C 成果・課題（未実施のため期待する効果）

学習合宿に参加した生徒の家庭学習の経験値が増し、学力へ反映されること、それを受けて子育て世代の弥栄での子育て環境の評価が高まることを期待

A

改善点 3月末実施のため事後に検討

事業名

地域を繋ぐ防災大運動会

P

事業の目的

防災をメインテーマとする運動会で、集落連携や協働意識を高める。

災害時の自助、共助のためのスキルアップを図り、災害に強い郷づくりをめざす。

見込まれる成果・効果

運動会を楽しみながら、互いの顔と名前を覚えるきっかけづくり。

子供からお年寄りまでの幅広い層の参加で、災害時のささえあいの機運を高める。

集落連携や協働意識を高める。

きっかけづくり

自治区実施の避難訓練
先の大雨災害時の避難経験
高齢者をどう助けるか

動きづくり

まちづくり委員会による綿密
な実施計画作成。自治会への
協力ならびに参加の要請

実践活動の姿

実行委員会による防災運動会
の開催。
炊き出し訓練の実施

D

事業の概要

- ・ 4回の実施計画の検討会、プログラムは子供からお年寄りまで楽しめる内容とした。
- ・ 災害時に役立つ物資の調達
- ・ 内容は写真で紹介



装具を付けて

- ・ 不自由な体験



段ボール簡易トイレ



借り物競争



竹竿と毛布で簡易担架



炊き出し体験

- ・ 参加人数 120人/地域住民580人中

C

成果・課題

プログラムを通じて、大人、赤ちゃんや幼児も入り
混じり競技を楽しみ、沢山の笑顔を見る事ができた。

共育の素晴らしい一面も感じる事ができた。

救助や避難に役立つ経験を共有できた。

中学生の参加が少なかったため、次回は中学生にも
参加してもらう取り組みが必要。

A

改善点

実行スタッフはまちづく委員会が主体で
それに公民館、社協が参加した形だった
が、PTA や自治会、そして学校からの参
加ものぞみたい。

更に皆でつくる運動会を目指したい。

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

「パワースポットPR事業」

P

事業の目的

地域の隠れた名所の発掘と紹介

弥栄町には、奥地にある大鹿山をはじめとした豊かな自然環境に囲まれた絶景ポイントがあり、四季折々の風景を後世に残すとともに、こうした隠れたスポットをPRして新たな魅力の一つとして加えようとするものです。

見込まれる効果

地域の魅力再発見と新たな来訪者

地域の方のみならず、多くの方に知ってもらい訪れていただくことを目指しています。

きっかけづくり

- ・まちづくり推進委員会内での情報共有
- ・現地踏査による安全確認
- ・地域への呼びかけ

動きづくり

- ・公民館によるウォーキングイベント等への参画
- ・ドローン空撮による映像作品の製作



実践活動の姿

- ・公民館等によるウォーキングイベントでの利用
- ・ドローン空撮による映像作品の上映
- ・公民館・まちづくりだよりへの関連記事掲載

D

事業の概要

- ① 前年度事業で整備をした看板や展望台を活かすイベントを企画、活用のためドローンを使用したPR動画を作成する。
- ② 杵束公民館健康ウォーキング（平成29年10月28日（土）実施・参加者28名）や、有志によるハイキングが実施された。
- ③ PR動画を1月27日（土）杵束公民館ミニ劇場で上映した。
- ④ 次年度に実施予定のフォトコンテストの募集準備をする。（現在進行中）



C

成果・課題

- ・地域に大鹿山一帯のスポットを認知してもらえた。
- ・地元集落の活性化
- ・課題として、自由散策をする為の安全対策が必要。

A

改善点

- ・事業に関わる方の輪を拡げる。
- ・地元住民ボランティアによる除草等の維持管理活動の継続。

18 三保地区まちづくり推進委員会

事業 『三保なべフェスタ』を通じた三保地区活性化事業



P

【事業の目的】

- 高齢化に伴い増えてきた耕作放棄地を再活用する。
- 放棄地で野菜作りをしながら、人と人との関わりを大切にし、つながりを強める。
- ◎地域住民の交流の場とし、楽しく元気な地域作りを目指すと共に、地元へ愛着を深める。

【見込まれる成果・効果】

- ◎放棄地の有効利用と減少につなげることができる。
- ◎生涯学習推進委員を中心に作った野菜をなべの具材として「三保なべフェスタ」を開催することで、年齢の枠を超えた住民同士・地域のつながりを広めることができる。

きっかけづくり

- ・生涯学習推進委員会で元気な三保作りをするための話し合い
- ・放棄地の有効活用（まちづくり委員会・自治会からの情報提供）

動きづくり

- ・推進委員中心に住民へ呼びかけ放棄地での野菜作り
- ・マンネリ化しないイベント内容の協議
- ・広報による住民への情報提供

実践活動の姿

- ・乳幼児から高齢者の参加による「三保なべフェスタ」の開催
- ・進化させながら継続定着してきつつある事業
- ・地元出品者との協力による野菜等の販売拡大

D

事業の概要

【事前準備】

- 推進委員会議3回実施
- 畑作り 4月下旬から随時
 - ・草取り 種まき 苗植え 施肥
- 広報活動
 - ・公民館だより ポスター 回覧等
- 前日
 - ・野菜収穫
 - ・なべ具材、会場準備



【当日 12/3 (日)】

- 来場者約300名
- 当日の運営
- 振り返り会議



【事後】春・夏野菜に向けての畑作り



会場の様子

C

成果・課題

- 野菜作りを通して地域の人が関わりながら、少しずつではあるが放棄地減少につなげることができた。
- 若い世代の参加も目立ち、幅広い年齢層で、集い・楽しめるきっかけづくりとなった。
- 機械の貸出しPR、栽培支援の人材確保は継続課題（今年度農作業従事者 延50名）
- 放棄地を減少させるためには、まだまだ多くの人の参加を呼びかける手立てを考える必要がある。
- イベントは集客手段として今後もより内容に工夫が必要である。

A

改善点

- *実行委員の士気の継続。
- *ボランティア募集の枠を広げ、個々のつながりを大切にしながら、スタッフを増やしていく。（畑作り・会場の手伝い等）
- *個々の関われる範囲でのボランティアを認める。（多様な関わり・連携）
- *管理機購入が収穫時期と重なったため使用できなかったが、来年度はチラシ等で周知し、協力者の確保に努める。
- *広報の仕方を工夫し、より多くの理解や賛同を得ながら、地域のイベントとしてさらなる定着を図る。

19 白砂まちづくり委員会

事業名：課題解決特別事業

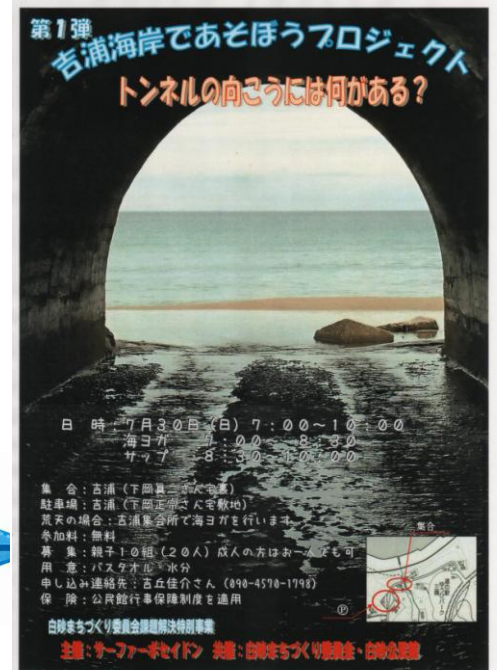
景観向上と賑わい創出事業

P

事業の目的： 瑞風運行の前に景観を向上させ、全国から撮り鉄ファンや来望者を迎えること
全国に誇れるこの景観の中の自然を楽しみ賑わい創出につなぐこと

見込まれる成果・効果：

- ①除草作業を安全に効率を上げることができる。
- ②来場者の増加により SNS 等での情報発信



きっかけづくり

28年度の大がかりな伐採を機に、このスポットの景観向上と賑わいを創ろう

動きづくり

- ・伐採木撤去手順書作成実施
- ・自然体験活動を企画情報発信
- ・明るい地域は女性の力から（秘めている力を発掘する声かけ・ケーブル広報）
- ・大麻地区との協議

実践活動の姿

- ・伐採木撤去・海ヨガ・サップの危険箇所下見と事業当日の役割分担会議

D

事業の概要

6月9日（金）～12日（月）伐採木撤去作業

7月21日（日）9：00～10：30 サップ安全点検ワーク

7月30日（日）7：00～8：30 海ヨガ

7月30日（日）9：00～11：00 サップ



9月22日（金）女性の生き方講座

C

成果・課題

- ・大麻地区と一体で広域海岸清掃を行った
- ・計画に基づき絶景の景観を活用した自然体験活動と女性の参画を推進する事業ができた
- ・29年度、景観改善と関係団体が7団体になる目標に対して、4団体となった（白砂まちづくり委員会を含む）
- ・新たな関係団体との次年度予算については、参加費や自己資金で事業継続ができることになっている



A

改善点

- ・地元の親子との関係づくり
- ・地元のわくわくニーズの発掘



20 黒沢まちづくり委員会

事業名

交流の広場づくり事業

P

事業の目的

- ・現状として、地域には若い世代が極端に少ない。暮らしやすい地域づくりを構築したいが、人がいなければ何も出来ないし始まらない。何とかして人々の交流を図り、〈夢が描かれる未来〉を見つける必要性が強く求められている。
- ・公民館をフル活用して、若者の集う場所、地域内外の話題が触れ合う『交流広場』を作りたい。

見込まれる成果・効果

- ・子供から高齢者まで幅広い人々が集う場所（広場）になる。
- ・若者の語り合いの場の提供ができる。

きっかけづくり

公民館の敷地内に使用されなくなった古い陶芸用の焼窯がある。放置すればゴミ化してしまう。修繕して再利用、活用策を考えようではないか。

動きづくり

黒沢まちづくり委員会において、婚活事業や、他の地域との交流事業の具として活用することが決定される。

実践活動の姿

公民館の大イベント「かっぱランド夏まつり」で試行。また移動することができるピザ窯に変身したので、11月の「みすみフェスティバル」に参加。「黒沢」を知って頂く絶好のPR活動となり、高い評価を受ける。

D

事業の概要

- ①公民館事務所前の必ず目に触れる場所に、ピザ窯収納庫『恋するピッツァ』を設置。
- ②ピザ作りは実際ピザ窯を作られている方に伝授をうけ、何度もピザの試作品を作り、生地づくりの調整・トッピングの種類・焼き方の工夫など思考錯誤を重ね、遂に完成。
- ③これから様々な行事を計画し、多くの人々の交流の場づくりの準備ができ、触れ合いの日を待っている。

①



ピザ窯。焼き上がりが具合を調整中。

みすみフェスティバルに出店。

C

成果・課題

- ・「かっぱランド夏祭り」で初披露。目新しさとアツアツの焼きたてが大好評で、地域活性化の一翼を担った。かっぱランドの新しい目玉商品として活用することができる。
- ・「みすみフェスティバル」の中で、どこの「まちづくり委員会」よりも先に出店する行動を起こすことができ、地域内外の多くの皆さんに「黒沢」を知って頂けた。知って頂くことが第一歩。今後の活動「黒沢の未来」にちょっとずつ繋がる一歩がはじまった。
- ・公民館事務所前に設置されたピザ窯収納庫は、来館される方の目に必ず触れる場所なので足を止め興味を持たれる。スマートフォンで撮影される方も多し。情報社会なので『一度、黒沢に見にいきましょう』と繋がっていくことに期待できる。
- ・課題としてあげると、地域外の若者へのアプローチや、地域内の意気込みをどこまで見せられるか、と思う。少し残念な事としてマイピザ作りに思いを馳せていたが「ノロウィルス」等の懸念からできなかったことです。

A

改善点

- ・まだまだ試運転状態なので1年後2年後と持続していく上で『人と人の交流の場』として確立できる交流の具としてどんどん活用していく必要がある。
- ・まちづくり委員会の事業展開として、しっかりと位置づけることが必要である。それにふさわしい物として取り組む考えを地域民と共有することができるか。
- ・若者のニーズとしては、「ふるさと創生未来会議」のメンバーで数少ない女性ではあるが、意見を十分汲み取っての行動として展開した。地域内外の若者のニーズの把握に対する直接的な取り組みはできなかったが、現在、まちづくり委員会ですすめている新たな組織づくりの中で若者の交流のセクションを明記するなど、今後に向けての展開付けをしている。実際の活動として「かっぱランド夏祭り」及び「みすみフェスティバル」において頑張ってみた。販売数量として350枚の実績ができ、自信もついた。客層は比較的に若者が多く嬉しさの声が連鎖。今後は、地域の行事の中でどのように活用して交流の場を増やしていけるのかが、次への目標。

21 黒沢まちづくり委員会

事業名

安全な桜ロード整備事業

P

事業の目的

- ・国の天然記念物「大平桜」という素晴らしいお宝があります。例年2日間のイベントが実施されていましたが、地域の方も風前の灯し火化し、作業が難しくなってきました。今年度より前夜祭と本祭に方針を転換しました。夜桜は大変見事で好評でしたが真っ暗な夜道の中での帰りとなり、安全面で課題が残りました。安全安心の観点から『桜ロード』を照らす灯り対策を考えることが目的です。

見込まれる成果・効果

- ・来訪者の方が、安心してイベントを楽しまれることに期待ができそう。
- ・また来る年の春に、地域外の方々に好印象をあたえることができる。

きっかけづくり

今まで2日間に亘って開催されていた「大平桜まつり」の実施が難しくなり、夜桜見物を計画し、1.5日祭り、いわゆる前夜祭を取り入れたところ、帰り道が暗く早急な対応にせまられた。

動きづくり

29年は役員の車を並べてライトの灯りに対応しましたが、十分ではなく安全面から考えても駐車場から大平桜までの間に灯光器等で足元を照らす必要があります。

(大平桜まつり実行委員会の反省会から)

実践活動の姿

平成30年の「大平桜まつり」は、平成30年4月7日(土)・4月8日(日)開催の為、実施していません。経費を翌年度に繰り起こして実行する予定です。

D

事業の概要

平成30年4月7日(土)前夜祭で照明器材10基を活用して、来訪される皆さんの安全確保に万全を期す。



29年の「大平桜まつり」前夜祭 スタッフの車10数台で対応。

C

成果・課題

未だ、実施できていませんが、きっと安全対策に役立つと思っている。

計画時点からの課題を今だ引きずっているが、まちづくり委員会としての考え方は、浜田市との協議と並行しながら地域力を最大限発揮し、出来る限りの対応をしたい。経費等の課題もあるが、浜田市とも調整を図りながら当委員会も他の事業との兼ね合いも念頭に財源の捻出に努め継続する策を模索する必要がある。

A

改善点

今回のようにレンタル方式が良いのか、あるいは、新たに購入することが良いのか財力との関係で、苦心している。

○Cとの関係の整理が必要不可欠です。

事業名

井野地区「コミュニティワゴン」試験運行事業

P

事業の目的 生活路線バスにより、一定の交通手段は確保されているものの、バス停から遠い高齢者は、自宅からバス停までの移動に負担を感じるようになってきている。一方でタクシーは自宅まで送迎してくれるが、運賃が高く敬老乗車券制度があるとはいえ、気軽に利用することはできない。また地区内の移動手段がなく、高齢者や子供たちが、地域のイベント等へ自由に参加しづらい等の状況を踏まえ、外出やふれあいの機会を創出するため、地区住民が中心となった共助による利便性の高い持続可能な交通システムの構築に取り組む。

見込まれる成果・効果 ○移動困難者や移動制約者の生活不安の緩和・解消。 ○地域住民同士の共助意識の高まり→生活課題の緩和（避難・除雪 etc.）

きっかけづくり

第2期地域計画書策定
住民アンケート

動きづくり

まちづくり推進委員会 INO
説明会
地区内ヒアリング調査

実践活動の姿

・交通運営員会立上 ・ドライ
バー募集 ・安全講習会実施
・試行運転&聞き取り、広報活動

D

事業の概要

期間内の祝祭日を除く月曜日～金曜日の運行 利用日の前日午後5時までに予約申し込みが必要

1回目試行運転 10/16～11/10 三隅行2便 井野行2便 曜日により利用地区指定 【15便23人】

2回目試行運転 11/27～12/22 三隅行2便 井野行3便 曜日による地区割なし 【30便48人】

3回目試行運転 2/19～ 3/16 三隅行2便 井野行3便 曜日による地区割なし

広報活動～ひゃこるネットみすみ（映像）、チラシの各戸配布と個別説明、公民館だより掲載、

公民館事業（餅つき交流会等）の参加者への周知

C

成果・課題

・利用者の半数近くが再利用され、利用体験者には喜ばれている。

・取組への地域理解がまだまだ徹底できておらず、広報活動の強化が必要と思われる。事前の広報活動として集落発送・チラシ配布・自治会長会での説明などを行い、2回目の試行運転では、ひゃこるネット放送での取り組み紹介や戸別訪問による利用促進活動なども行い、利用が増えた。

A

改善点

・利用者から遠方のドライバーの方だと申し訳ない気がして利用しづらいという声が出され、各集落・近隣集落でドライバーが確保できるようドライバー登録者の増員に努める。また、ドライバー増員していくことにより、運転ボランティアに携わる一人あたりの回数を減らす。（試行運転ドライバー 14名）

・経費の確保～地域理解を推進し、全世帯で事業運営を支える体制を目指す。